

# 同窓会だより

## 第49回全国歯科大学同窓・校友会懇話会に出席して

同窓会会長 神田正一



日時：平成15年4月26日  
(土)  
午後2時30分～5時  
場所：ホテルグランドパレス  
当番校：日本歯科大学

第49回全国歯科大学同窓・校友会懇話会が、日本歯科大学の主催により、東京のホテルグランドパレスにて開催されました。多和田副会長と2人で出席し、会の進め方、時間配分、協議の発言について、又、懇親会の様子等、次回の我々の開催に向けて視察して来ました。

さて、会議は次第に従い、開会の辞、当番校会長の挨拶があり、来賓の臼田貞夫日歯会長、中原爽参議院議員の挨拶がありました。今回は、日歯役員が改選されたため、新井専務理事他、8名の日歯理事が来賓として出席されました。

続いて、特別講演に移り、中原泉日本歯科大学理事長・学長が、「歯科大学・歯学部は今」と題され、約70分の講演を行われました。講演内容は、歯科大学の現状について、国立・私立問わずに厳しい運営が強いられており、10年後にはこの29歯科大学・歯学部が全部残っている事はないだろうとの事、国立大学においては迫っている独立行政法人化に伴い、ランク付けがなされ、統廃合が行われるのではないかと、又、私立大学も大学内の機構改革がなされなければ淘汰されて行くだろうと話されました。そして、日本歯科大学についての改革を示されました。学生の教官への評価を徹底し、それをフィードバックする、第3者による評

価を点数化して提示する、又、臨床・教育・研究の役割を明確化する、附属病院の診療科の改革、等、様々な改革を実行している事を話されました。我々新潟大学歯学部附属病院のスライドも出てきて、新潟市を例に取り、生き残りへの現状が示されました。我々にとって身近な話であり、興味深く、又、身を引き締めて聞いて来ました。

その後、協議に移り、次々期当番校に広島大学歯学部が選出され、次期当番校として私が、11月15日(土)に新潟市にて第50回の全歯懇を開催する旨挨拶してまいりました。協議はいつものように何も出ず、そのまま閉会となりました。毎回の事ですが、何とか協議の場において少し発言できる雰囲気が出来ればと思い、我々が当番となる次回にはこれを課題としたいと感じて来ました。来年からは年一回の開催となりますので、一番大切な協議で各同窓会が身近な問題からでも発言し、討議され、それが各同窓会にとって少しでも役に立つようになればと思われます。中々難しい問題もありますが、次回我々で努力してみようと思っております。

### 全国歯科大学同窓・校友会懇話会次第

1. 開会の辞  
日本歯科大学校友会副会長 辻塚慶二
2. 当番校会長挨拶  
日本歯科大学校友会会長 光安一夫
3. 来賓挨拶  
日本歯科医師会会長 臼田貞夫  
参議院議員 中原 爽
4. 来賓紹介
5. 出席者紹介
6. 特別講演  
座長 日本歯科大学校友会会長 光安一夫  
「歯科大学・歯学部は今」  
講師 日本歯科大学理事長・学長 中原 泉

## 7. 協議

議長選出

- 議題 1) 次々期当番校選出  
2) その他

## 8. 次期当番校挨拶

新潟大学歯学部同窓会

## 9. 閉会の辞

日本歯科大学校友会副会長 吉田清幸

# 平成15年度春の新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会に出席して

同窓会副会長 多和田 孝 雄

日 時：平成15年4月27日（日）

午前9時～12時

場 所：東京グリーンホテル水道橋

当番校：長崎大歯学部同窓会

第49回全歯懇の翌日に長崎大学歯学部同窓会の主催により国歯協が例年通り開催された。新潟を立つ時には肌寒く感じられた程であったが、東京は真夏のような暑さで、気候の違いを実感させられた。全国10大学から21名の参加があり、本校からは神田会長と私が出席した。以下に順を追って報告する。

### 1. 母校の変革と同窓会の関わりについて

①平成16年の大学院大学卒業者の同窓会への入会問題に関しては、各同窓会において、まだほとんど検討されておらず、現在の大学院卒業者への対応の説明がほとんどであった。

②平成14年に大学が独立行政法人化することは決定しているが、大学への予算の40%カット、その後の大学の閉鎖等に関連して、学部の収入増に同窓会はどのように関わるか。この点に関して、既に一部の同窓会は学部から資金援助を求められている。

③ほとんどの大学において、医学部付属病院と歯学部付属病院は近々に統合することになっているが、同窓会としての対応はどうしているのか。

この点に関しては、歯学部付属病院との病診連携の積極化、特殊外来のアピール、学術事業を通じた研修医制度への協力等が挙げられた。

④研修医制度における2年化の問題として、インストラクター、スペース及び患者確保の困難性が挙げられた。

2. 同窓会会員が公職選挙に立候補した場合の対応について

長崎大学では同窓生が県議会議員に立候補し、当選しているのでその経緯が説明された。

新潟においても、同窓生が市議会議員に立候補しているが、同窓生有志が幅広い協力をしていると説明した。

短い休憩を挟んで、「今後の歯科保健医療の方向と課題」という演題で、厚生労働省医政局歯科保健課の田口円裕先生の講演があった。その骨子は以下の通りである。

1. 歯科保健・医療の特殊性
2. 国民の視点に立った歯科医療提供体制（需給バランス）
3. 平成18年度より実施予定の歯科医師臨床研修の必修化
4. 8020運動の推進
5. 健康増進法における歯科保健の新たな位置付け
6. フッ化物の利用に関しては、洗口、歯面塗布、フッ素入り歯磨材を推奨
7. 口腔機能と誤嚥性肺炎など全身疾患の関わり

# 平成15年度同窓会総会を終えて

同窓会副会長 宮 野 正 美

日 時：平成15年4月19日（土）

午後12時30分～

場 所：歯学部第一講義室

週の初めには満開だった新潟市内の桜も、すっかり葉桜となった小雨混じりの週末土曜日、平成



15年度の同窓会総会が約25名ほどの会員、役員の出席のもと、開催されました。

2回生の長谷川裕亮総務理事が議長となり、神田正一会長の挨拶で開始されました。会長はその中で「33期生の卒業生が加わり、同窓会は1800名近い大きな組織となった。組織が大きくなるに従い、会に対する意識の違いを感じるころであるが、会員の皆様に少しでも役に立つ同窓会でありたい。」と述べられております。年4回の理事会、年2回の評議会においても、役に立つ事業、情報提供を念頭に入れ事業執行にあたっています。会員の皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

14年度事業の中では特に、「病診連携、母校との連携を考える体験セミナー」が好評だったこと、14年7月に開催された支部長会議（詳細は同窓会誌第23号報告をご覧ください。）での各支部との情報交換が会員の移動の把握、未納会費の納入に役立ったことがあげられます。会員の先生方のニーズを汲み取り、連携を密にすることが事業の活性化に一番であることが再認識されたことでした。

15年度事業においては、特に、同窓会 HP の充実、メールマガジンの配布、会費長期未納者対策、全歯懇・国歯協主管があげられます。

HP、メールマガジンともに会員の皆様には出来るだけ即効性のある情報提供を行える様、努めてまいります。但し、現在のところ、予算上外部委託ではなく、担当理事の尽力によるものであることをご理解いただきますようお願い致します。

会費長期未納会員対策は、従来の督促ではなく、3年間分の未納会費および今年度会費の計20,000円を納入いただければ、会誌や学術情報等の印刷物の発送を再開し、一度切れた同窓会との絆を復活させていただくための方策です。該当する方がいましたら、一言お声がけいただければ幸いです。（納入いただく未納分3年間以外を免除するものではありません。）

今年11月15日、16日に本会が主管する全歯懇・国歯協については、会誌等で事後報告させていただくことになると思います。

同窓会総会后に歯学会特別講演があるため、限られた時間内で総会を運営するよう、事業報告や事業計画は深町専務理事から一括して説明がありましたが、時間内には終わることが出来ませんでした。総会運営上の反省点として次回は改善する必要を感じました。

以上、慎重審議の上、14年度決算、15年度事業案・予算案が満場一致で承認されました。

組織内の年齢差が親子ほどの開きが生じ、その差は拡大する一方です。会員と執行部、会員間の意思の疎通が一層必要となつてきています。組織を維持する上での帰属意識、共通基盤は何かを模索しながら事業執行にあたる必要があるでしょう。皆様のご理解、ご協力ならびに積極的な同窓会活動への参加をお願い申し上げます。

## 平成15年度同窓会総会講演 「歯科インプラントの 適応拡大をめざして」

～齊藤 力教授の講演を聞いて～

組織再建口腔外科学分野 大 沢 大 (33期)  
大学院1年

平成15年4月19日の新潟大学歯学部同窓会総会学術講演会では、本学組織再建口腔外科学分野の齊藤力教授による「歯科インプラントの適応拡大をめざして」という講演が催されました。

インプラント治療が日本へ導入されて20年あまりたち、現在ではインプラント治療は一般の人々に広く知られた治療法になっており、歯科の臨床では欠くことができない状況です。

しかし全ての状況下でそのまま適用できるわけではなく、状態によっては審美的問題が残存したり、適用自体困難な症例も存在します。今回は、少しでも条件の悪い患者さんにインプラントを適用するための工夫に関して、齊藤教授はそのご経験を軸に講演なされました。

インプラント適用に際して骨不足、欠損が指摘される症例への対応として、骨移植、骨延長術、神経移動術、骨再生・形成術を挙げられ、各方法





を行ったご経験をお話になり、そこから得られた成功法を示唆されました。さらにインプラント埋入後の環境をととのえるための口腔前庭拡張術、顎骨再建症例への応用、矯正治療への応用、顎矯正外科への応用にもふれられ、口腔機能、形態、再建や構築のための選択肢としてのインプラントの重要性を強調されました。

一方で、感染をはじめとした偶発症発生のリスクがインプラントには伴っています。この点に関しても症例を挙げられ、種々リスク軽減のための対処をお話になり聴衆の聞き入るところとなりました。

20年前、生体に金属を埋め込むことに医局員が反対する中、誰かがやらなければという思いでインプラントの仕事を進んで行き、挑戦を続けた齊藤教授のご姿勢は、歯科医師として歩み始めた私にとって刺激となるものでありました。

近い将来組織工学的手法による治療が全盛になると予測されますが、適用症例の拡大がすすめられ、良い意味でその終着駅がなくなった人工の第3の歯、インプラントの果たすことのできる役割は今後とも重要であり、私たち若い歯科医師は学び続けていかなければならないと感じました。

